

治安基盤の充実

【担当省庁】警察庁

奈良県における取組

交通安全対策

奈良県における交通事故死者数は令和2年中には25人と、戦後統計が残る昭和22年以降最少となったものの、うち19人(76%)が65歳以上の高齢者であり、全交通事故死者数に占める高齢者の割合は過去最高となっている。

高齢者の交通事故を抑止し、今後さらなる交通事故死者の減少を図るためには、交通環境の改善は不可欠である。

しかしながら、全国においても特に厳しい当県の財政事情から、十分な交通安全施設が整備されているとは言い難く、LED式信号灯器や歩車分離式信号機への改修、既設信号機の増灯や横断歩道の新設・改修等、行うべき交通安全対策が、予算上限的にならざるを得ない状況にある。

また、既存の交通安全施設についても、同様の理由から老朽化対策が不十分で、灯器異常や倒壊の危険性が高まっており、計画的な施設の更新が必要である。

このように、交通死亡事故抑止対策とインフラ老朽化対策を、並行して推進していく必要があるにもかかわらず、極めて限られた予算の範囲内では、十分な対策を講じられない状況にある。



LED式信号灯器の整備状況(R2年3月末)

	全国	奈良	滋賀	京都	大阪	兵庫	和歌山
車両用灯器総数	1,270,749	14,696	15,648	23,657	81,538	46,039	12,173
うちLED	801,215	7,515	10,605	13,749	56,859	19,212	9,596
割合	63.1%	51.1%	67.8%	58.1%	69.7%	41.7%	78.8%

信号制御機更新状況(R2年3月末)

	全国	奈良	滋賀	京都	大阪	兵庫	和歌山
信号制御機総数	205,716	1,993	2,304	3,312	11,874	7,226	1,811
うち更新数	9,155	92	93	98	565	407	93
割合	4.5%	4.6%	4.0%	3.0%	4.8%	5.6%	5.1%

国にお願いすること

交通安全対策

第11次交通安全基本計画の目標達成に向け、安全で快適な交通環境を整備するためには、交通危険箇所の改善に加え、老朽化した交通安全施設の戦略的な維持管理・更新の必要があるが、当県は極めて厳しい財政事情にあることから、補助対象事業の拡大を要望する。

【県担当部局】警察本部